

幼児理解の理論と方法

科目ナンバリング EDU-216
選択 2単位

岡田 たつみ

1. 授業の概要(ねらい)

幼児理解は保育の出発点であると言われる。こどもを当該年齢の幼児としてみるのではなく、今、目の前にいる一人一人を理解しようとする姿勢が保育者に求められる。理解しようとしてはじめて保育を計画し、実践し、省察することができる。そしてまた新しい幼児理解が積み上げられ、次の保育計画へと続いていく。それでは、幼児を理解するとはどのようなことなのだろうか。他者である幼児を理解することはできるのだろうか。

本科目では事例研究やDVD視聴を行い、幼児の気持ちや他者との関係を探ることを試みる。またエピソード記録のとり方と考察の仕方を学習する。記録をもとにグループワークをすることにより、自らの考え方と向き合う。また、グループの討議内容をプレゼンテーションし、受講者全体で共有する。本科目では、自らの価値観と幼児理解の関係を明らかにし、「幼児を理解する」とはどのようなことなのか、どのような方法で理解に近づけることができるのかについて考察をすすめる。

2. 授業の到達目標

- ・記録や振り返り、他者の意見から、自らの意見を見つめ直そうとする姿勢を修得する。
- ・幼児理解とはどのようなことなのか、他者に説明することが出来る。
- ・幼児理解、保育計画、保育実践、省察の関係の基本的な考え方を習得する。

3. 成績評価の方法および基準

授業に対する姿勢30%、課題レポートなどの提出物30%、試験40%を総合して評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

文部科学省

厚生労働省

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 幼稚園教育要領

保育所保育指針解説

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 チャイルド本社

参考文献

著者代表 青木久子 『子ども理解とカウンセリングマインド 保育臨床の視点から』 萌文書林

5. 準備学修の内容

- ① 幼稚園、保育所ボランティアなどに参加し、事例を記録し、こどもの気持ちを考える。
- ② ボランティア記録、授業ノート、読書感想文などの自分の記録を振り返り、授業に臨む。
- ③ 振り返ることで見えてきたことを、ノートに書き込む。
- ④ 事例研究、DVD視聴後のディスカッション後には、必ず自分の考えをまとめ記録をすること。

6. その他履修上の注意事項

- ・仲間との意見交換の際には、「話してみよう」「聞いてみよう」という主体性を持つこと。
- ・グループでの討議には、積極的に参加すること。
- ・自分が授業を作る一員であることを自覚すること。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | イントロダクション
他者とかかわるということ |
| 【第2回】 | 「わたし」とは
絵本の読み合い |
| 【第3回】 | 関係性の中に生きる「わたし」
自分の様々な側面を知る |
| 【第4回】 | カウンセリングマインド
カウンセリングマインドとは |
| 【第5回】 | カウンセリングマインドと保育臨床
幼児を理解しようとする姿勢 |
| 【第6回】 | 幼児理解と援助の手がかり
保育者の専門性としての理解と援助 |
| 【第7回】 | 保護者理解
保護者理解を目指した援助 |
| 【第8回】 | 遊び理解と援助
保育における遊びの援助方法 |
| 【第9回】 | 幼児の遊びと保育者
幼児の主体性を育てる援助方法 |
| 【第10回】 | 個と集団の育ち
友だち・仲間との生活を支える援助とは |
| 【第11回】 | 保育記録
保育に生きる記録とは |
| 【第12回】 | 記録と保育計画
記録から、援助の方法を探る |
| 【第13回】 | 幼児理解・保育計画、保育実践、省察
実践後の記録・省察からの保育デザイン |
| 【第14回】 | 今後の課題
社会の変化と今後の課題 |
| 【第15回】 | まとめと試験 |